

■あきたふるさと講座

有料講座 (1回 420円)

F 県民読書おすすめ講座～比較文化～ (定員130名)

会場：秋田県生涯学習センター

日中、日英、日仏に関する比較文学を通じて、文学の奥深さにふれ、新たな文化的発見を得ることのできる講座です。また、講師の方々の読書体験等についてもご紹介いただき、読書のさらなる魅力を感じられる講座です。

日	時	テーマ	講師
F1	5/11 (土)	李香蘭と満州映画 ～中国人女優になった日本人～	秋田大学教育文化学部 准教授 羽田 朝子 氏
F2	6/15 (土)	横光利一『上海』 ～国際都市の表象～	秋田大学教育文化学部 准教授 山崎 義光 氏
F3	6/29 (土)	シェイクスピアと黒澤明 ～『マクベス』とその翻案『蜘蛛巣城』を中心に～	秋田大学教育文化学部 副学部長・教授 佐々木 和 貴 氏
F4	9/7 (土)	シェイクスピアの詩と日本の詩 ～ソネット形式の可能性をさぐる～	秋田公立美術大学美術学部 教授 大八木 敦 彦 氏
F5	9/28 (土)	世界の中の小林多喜二 ～国際シンポジウムの成果を辿りつつ～	秋田県立大学総合科学研究センター 学長特別補佐・教授 高橋 秀 晴 氏
F6	11/2 (土)	伊藤永之介『鷲』 ～人間学としての文学～	秋田工業高等専門学校人文科学系 教授 石塚 政 吾 氏

今年度の本講座は、上記趣旨のもと、県内の各大学・学校から、それぞれ研究分野の第一線で活躍されている講師陣をお迎えしました。今年度は、テーマ内容に加え、講師陣の読書体験についても御紹介いただく機会を得ました。講師それぞれの独自の切り口による各講座は、色彩豊かな学びを提供し、受講者にとって新たな読書への扉を開いてくれる全6回となりました。本講座を合計280人が受講しました。

また、秋田県立図書館の協力により、各講座回ごとにテーマに関連した図書コーナーが、同図書館内に開設されました。

F 1



F 2



F 3



F 4



F 5



F 6



F 1 5月11日(土)「李香蘭と満州映画 ～中国人女優になった日本人～」

秋田大学教育文化学部 准教授 羽田 朝子 氏

「李香蘭」といえば、誰もが聞いたことのある“中国人女優”名です。本講座は、①李香蘭(＝山口淑子)が出演した戦前の満州映画はどのようなものであったか、②「李香蘭」としての葛藤や苦悩が日本人「山口淑子」の人生にどう影響したかをテーマに展開されました。

戦前の歴史的背景や彼女の生い立ちから「李香蘭」誕生、戦後の山口氏の活動を豊富な資料とともに、丁寧に語っていただきました。映像・音楽も教材として紹介され、これまでの読書講座にない新たな学びに感動する受講者も少なくありませんでした。

受講者の声：「李香蘭という名前はたびたび聞いていたが日本人だと初めて知った時はびっくりした記憶があります。出演した映画は見たことはありませんが、本日聴いた歌声はすばらしかったし国際人のさきがけだと思いました。」

F 2 6月15日(土)「横光利一『上海』 ～国際都市の表象～」

秋田大学教育文化学部 准教授 山崎 義光 氏

複雑な時代性と国際関係をはらんだ重厚かつ壮大なうねりを感じる作品について、丁寧にお話しいただきました。純粋に、一つの作品として読み楽しむことのできる本作ですが、山崎先生の時代背景解説と群像小説としての見方のお話で、より奥深く作品を味わうことのできる講座でした。小説内容と講座当時の国際情勢を重ね合わせながら聴講した受講者も少なくありませんでした。

また、読書に対して「挑戦の心」で臨んだという先生の体験談も披露され、多くの受講者に感銘を与え、読書に対する大きな動機付けとなっていました。

受講者の声：「戦中・戦後文学を読む際の示唆に富むお話を頂けました。」「(1928～31)上海の発展、国際都市としての上海を詳細に示していただき、大変参考になりました。芥川から「上海」訪問を勧められたこと、谷崎にも上海交遊記のあることを先生のお話で知りました。ご自身の読書体験も披露していただきましたが、興味深く拝聴しました。」

F 3 6月29日(土)「シェイクスピアと黒澤明 ～『マクベス』とその翻案『蜘蛛巣城』を中心に～」
秋田大学教育文化学部 副学部長・教授 佐々木 和貴 氏

本講座では、シェイクスピアの活躍した時代や人物像といった基本的な事項から、『マクベス』という代表作を取り上げ、その深い作品性についてまで、初めて学ぶ人がシェイクスピアについて概略的に学べるよう、丁寧に語られました。また、これに倣い黒澤監督の『蜘蛛巣城』が制作され、その比較も映像等を用いて分かりやすく解説されました。両作品の関係性や見事な日英文化の比較を示しての講座を通して、受講者の多くがたくさんの驚きと意外な発見を抱くことができました。改めてシェイクスピア作品や黒澤作品を手にとってみたくなる講座であり、様々な角度から読書へのアプローチがあることを示していただきました。

受講者の声：「今日の講座で有名な劇作家シェイクスピア、世界の黒澤、名優三船敏郎・山田五十嵐鈴、すごい人たちの話を聞けたことは大変すばらしく感じた。その時代に戻ったようであつかしい気持ちになった。」

F 4 9月7日(土)「シェイクスピアの詩と日本の詩 ～ソネット形式の可能性をさぐる～」
秋田公立美術大学美術学部 教授 大八木 敦彦 氏

本講座は、“劇作家”シェイクスピアに焦点を当て、劇の台詞はすべて「ソネット形式」という“詩”で書かれていることから学びが始まりました。当初から、受講者は新たな学びに包まれ、この日の講座は展開しました。ソネット形式による詩の中では、強弱や韻のふみ方、イギリスの文化的背景などが実に緻密に散りばめられていることについて深く学ぶことができました。そして、こうした要素のため、簡単には日本語訳ができないという事情も知り、シェイクスピアがなぜ難しいと言われているかの所以についても理解できる講座内容でした。こうしたことを知ることができたおかげで、シェイクスピア作品に挑んでみようという気持ちが講座後には得ることができました。

受講者の声：「シェイクスピアのソネットに始まり（弱強五歩格の説明）、日本のソネット詩の説明、大変新鮮で興味深く拝聴しました。定型の基本的な事柄や知識を度外視して、よく知らないまま理解した気になっていたと反省させられました。」

F 5 9月28日(土)「世界の中的小林多喜二 ～国際シンポジウムの成果を辿りつつ～」
秋田県立大学総合科学教育研究センター 学長特別補佐・教授 高橋 秀晴 氏

小林多喜二は、現大館市出身の作家です。本講座では、彼の人物像や彼が身を投じたプロレタリア文学、クラルテ運動とは何か、現在の多喜二研究における国際的状況について等を中心に講座が展開されました。特に、2000年代当初の弱肉強食、格差社会といった世のあり方が『蟹工船』の見直しと研究が開けるきっかけとなった点は、受講者にとって記憶に新しく実感をもって学ぶことのできる内容でした。

また、高橋先生の読書体験は、ご自身の切実で身につまされる経験を語られ、そこに由来する「読書は人生を疑似体験することができる」という人間形成におけるメッセージを受け取った受講者を深く傾かせました。

受講者の声：「大変緻密な資料により世界各国で小林多喜二の翻訳が試みられた様子がわかりました。小牧近江とのかかわりも丁寧に検証され、興味深かったです。私たちが知っている以上に世界的に評価されているということがわかり収穫でした。」

F 6 11月2日(土)「伊藤永之介『鶯』 ～人間学としての文学～」
秋田工業高等専門学校人文科学系 教授 石塚 政吾 氏

伊藤永之介は、秋田出身のプロレタリア文学作家です。伊藤の作品は、秋田の実在の場所を舞台とすることが多く、本作『鶯』にも郷土の特徴やこれをめぐる伊藤の思いが色濃く反映されていることが語られました。それ故に、多くの受講者にとっては、伊藤の著す世界観に親しみと入り込みやすさを感じる事ができたようです。

また、伊藤の表現方法が、文章による明示ではなくて、示唆から読み取るところが多いという点や人物関係を整理した見取り図を書いてみることの提示など、読解の上での学びのポイントを得られたことも受講者にとっては収穫でした。

受講者の声：「三島、分銅氏の解説をひきながら、丁寧に分析されて興味深く拝聴しました。本多秋五、藤原辰史の評の指摘もおもしろく、「人間学」という先生の観点もすばらしいと思いました。著作目録の地道な研究の成果も期待しております。」